

## 概 観

## 事業の概要

当社の事業は、ミニチュア・小径ボールベアリングやロッドエンド&スフェリカルベアリング及びピボットアッセンブリーを主要製品とする機械加工品セグメント(当期売上高比率41.6%)と、ハードディスクドライブ(HDD)用スピンドルモーターやファンモーター等の精密小型モーター、PC用キーボード、液晶用LEDバックライト等の光デバイス関連製品、及び計測機器を主要製品とする電子機器セグメント(同58.4%)により構成されております。

製品開発は、主に日本、ドイツ、タイ及び米国で行っております。技術本部で中長期視野の基礎研究開発及び製品開発を、各事業部の技術開発部門ではビジネスに直結する製品開発を行い、各部門間の連携を通じた技術の補完と共有により、効果的な製品開発に努めております。生産はタイ、中国、シンガポール、マレーシア、日本、米国及び英国などで行っております。当社グループ最大の生産拠点であるタイの生産高が連結生産高に占める比率は49.6%(当期)であり、中国での生産高は23.5%と、日本を除くアジア全体の生産高は80.9%であり、海外全体の生産高は91.5%です。

当社製品の主な市場は、PC及び周辺機器(当期売上高比率36.5%)、OA及び通信機器(同15.0%)、家電(同9.3%)、自動車(同9.9%)、そして航空宇宙(同10.2%)などです。これらのメーカーである当社の顧客は日米欧のほか中国を中心にアジアで生産を展開する企業が多く、当社の地域別売上高は日本を除くアジアが最も多く、連結売上高に占める比率は50.2%(当期)、次いで日本が多く25.6%、ほかは北米・南米と欧州となっております。

当社の組織は、機能的に活動できる体制を目的として14事業部と5本部が社長直属の組織として構成されております。事業部は製造と営業が一体化した組織として担当事業の業績追求を行っております。本部は、各々の機能に応じて各事業部を横断的に側面から支援する組織です。

## 戦略の概要

当社は、精密部品の開発・生産・販売を事業領域として、「ものづくりで勝てる会社、技術で勝てる会社」を標榜し発展と成長を目指しております。その実現のためには、当社の最大の課題である収益力の向上をスピードを上げて果たすことであると考え、1. 構造改革の断行、2. 技術開発の強化、3. 将来像を明確にした経営を当面の経営の戦略課題として掲げ、取り組んでまいりました。また、「環境保全活動」についても、当社が世界各地で事業を展開するうえで最重要テーマの一つとして、従来から徹底した取り組みを続けております。

この目標のもと、これまで既に、1. 組織改革～事業部制の導入、本部の設置、2. 量から質、売上から利益追求への方針転換、3. 技術開発の強化～技術本部による統括、基礎技術部門の設置、4. 課題事業への対応を実施しました。具体的には、組織改革により組織間の壁の排除とグループ内資源の有効活用が進み、各組織がベクトルを合わせて事業を展開しております。また、量より利益を優先する方針を明確にし、ものづくりへの取り組みの見直しを徹底しております。技術開発については、技術本部のもと、基盤の再構築が進んでおります。新製品や新市場、及び次世代製品の開発に大切なのはコア技術の開発であることから、基礎技術の強化に重点を置き、複数のコア技術を複合化することで新しいビジネスの展開をはかっております。収益面で課題を抱えていた事業については、最優先事項として早期の利益化を目指しました。

当期は、これらの事業も含めた全社ベースで赤字事業をなくす目標を立て、若干の例外はあったものの、ほぼ目標を達成することができました。一方で、今後の成長を支える成長事業の拡大に向けた体制整備を行いました。

来期は、前進の年と位置付け、事業の拡大と利益の増大に取り組んでまいります。また、これからはミネベアを持続的な成長軌道に乗せていくことが重要であり、明確な中期的指標を持って取り組んでいく必要があります。そのために、来期をスタートとする中期事業計画を策定しました。この中期事業計画を達成することで、さらなる将来への飛躍をはかりたいと考えております。

## 中期事業計画の指標

2007年5月現在	2008年3月期	2009年3月期	2010年3月期
売上高	3,350億円	3,500億円	3,700億円
営業利益	300億円	340億円	380億円
税引き前利益	235億円	260億円	300億円

また、長期的な展望として、5年後の2012年3月期では売上高5,000億円を目標といたします。